



介護の魅力と価値を高めるのはあなたです

# 介護福祉経営士 ニュース KFK News

2023  
**2.28**  
No.104

## CONTENTS

**特集** 介護施設の人員配置基準緩和に向けた議論が本格化

人員基準緩和＝  
生産性の向上の図式は  
成り立つのか

2

●今月の「介護ビジョン」

4

●合格者の声

5

●第7回「介護福祉のみらい」  
作文コンクール  
入選作品掲載

6

●お知らせ  
介護福祉経営士試験  
について

7

●イベント紹介

●介護経営Lab投稿募集中!!

8

### 特集

介護施設の人員配置基準緩和に向けた  
議論が本格化

## 人員基準緩和＝ 生産性の向上の図式は 成り立つのか



一般社団法人  
日本介護福祉経営人材  
教育協会

お問い合わせ先

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会 事務局

☎ 03-3553-2896

http://www.nkfk.jp

〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号  
S-GATE八丁堀9階

制作：株式会社日本医療企画

# 人員基準緩和＝生産性の向上の図式は成り立つのか

現在、介護施設の人員配置基準は原則3対1で運用されているが、昨今の介護現場の人手不足を背景として介護施設の人員配置基準を段階的に緩和していくことが検討され始めている。本特集ではそうした議論の過程についてレポートするとともに、介護施設の施設長として地域ケアの現場を経営しながら、ロボットやICTを高齢者福祉領域に導入する研究に取り組む尾林和子氏(当協会理事、日本福祉大学福祉経営学部招聘教授、社会福祉法人東京聖新会理事、特養フローラ田無施設長)に話を聞いた。

## いかに少ない人手で

### 介護現場を回していけるのかを考えて行く時代

昨年末、内閣府より「介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージ」が公表された。このパッケージの中では「人員配置基準の柔軟化」を検討していくことが言及されている。具体的には「現行の人員配置基準である3対1より少ない人員で運営することが可能となる施設が出てくる可能性がある」との見解を元に「先進的な取り組みを実施している施設の人員配置基準を柔軟に取り扱うことを含め、次期報酬改定の議論の中で検討する」としている。

この背景には現在の介護業界の最大の課題である「人材不足」がある。2022年度からは、いわゆる“団塊の世代”が後期高齢者となりはじめており、2025年度には全員が75歳以上に到達する。そのため、介護ニーズが急速に高まっていくことが予想される。一方、2025年度から2040年度にか

けては、現役世代人口が急速に減少していくため「介護人材の確保」が極めて難しくなる。こうした状況の中で「人員配置基準」を緩和しなければ、介護保険サービスの持続的運用が適わなくなる可能性がある。介護業界において人材の確保と生産性の向上が急務とされているのはこのためだ。

### 実証実験などによるデータ収集が進む

厚生労働省ではICTや“介護補助職員”の活用を前提に、介護付有料老人ホームなど特定施設の人員配置基準の緩和に関する実証実験を行ってきた。

例えば、SOMPOケアでは昨年7月より「令和4年度介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」を実施。入居者数や平均介護度などの要件の違う12施設において、①デジタルテクノロジー(睡眠センサー、自動体位変換器、介護用シャワー、食事の再加熱カート、と

表 介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージの概要

(1) 総合的・横断的な支援の実施	①介護現場革新のワンストップ窓口の設置 ⇒事業者の様々な実情・ニーズを適切な支援につなげる総合的な事業者支援窓口を設置
	②介護ロボット・ICT 機器の導入支援 ⇒どのような課題にはどのような機器を導入すればよいか、実証実験にもとづいた代表的な導入モデルを提示
(2) 事業者の意識変革	③優良事業者・職員の表彰等を通じた好事例の普及促進 ⇒特に優れた事業者・職員を表彰・全国に発信し、優良事例の横展開を図る
	④介護サービス事業者の経営の見える化 ⇒詳細な経営情報について報告を義務付ける(財務状況の公表の義務付け等)とともにデータベースを整備
(3) テクノロジーの導入促進と業務効率化	⑤福祉用具、在宅介護におけるテクノロジーの導入・活用促進 ⇒介護施設や在宅介護において負担軽減や生産性向上につながるの機器の導入・活用について、介護報酬などでの評価のあり方について検討
	⑥生産性向上に向けた処遇改善加算の見直し ⇒処遇改善に関する加算が3本立てとなっており、事務負担が大きい。手続や書類の簡素化を進め、加算制度の一本化について検討
	⑦職員配置基準の柔軟化の検討 ⇒3:1より少ない人員を想定し、人員配置基準を柔軟に取り扱うことを次期報酬改定の議論の中で検討
	⑧介護行政手続の原則デジタル化 ⇒全自治体による電子申請・届出システムへのアクセス確保と様式の全国標準化を行うとともに、電子申請・届出システムの利用を原則化

出典：全世代型社会保障構築本部<sup>※</sup>(第5回)資料を元に作成

※全世代対応型の持続可能な社会保障制度構築のための企画及び立案並びに総合調整を行うことを目的として開催されている。

ろみサーバー、記録システム)、②介護補助者、③同社のデータ分析システム「リアルデータ」の3つを利用しながら検証を実施。業務時間の削減効果を測るとともに、サービスの質低下や職員の負担増に繋がっていないかなど、「職員配置3対1以下でも、利用者のQOLや職員負担にマイナス影響がない」ことを確認することを目標に実証実験を行ってきた。

現在は厚生労働省によってデータ検証が行われている段階であり、SOMPOケアが2023年1月に行った会見では「12施設で一律の成果は確認できず、利用者の状態、職員の熟練度、施設長のマネジメント力など、個々の施設の状態・環境によって業務を効率化できた度合いが違うという自然な結果が出た」とし、「介護現場のリアルは多様性・複雑性だというファクトデータが出ており、判断は国の審議会に委ねる」と述べた。

また、「介護補助者(助手)」については、三重県において、平成27年度より県内の介護老人保健施設で高齢者を介護助手として活用する取り組みである「元気高齢者による介護助手制度導入モデル事業」が展開されてきた。地域の元気な高齢者を介護助手として採用、介護職員が行ってきた周辺業務(部屋の掃除や食事の片付け、ベッドメイク、シーツ交換、園芸などの趣味活動の手伝い、話し相手など)を担う形をとる。今年1月に公表された東京都健康長寿医療センター研究所による研究では、こうした介

護助手の採用に対して「業務量が軽減した(87.7%)」「介護業務の効率性が向上した(71.1%)」「気持ちにゆとりができた(66.7%)」といった介護現場にポジティブに作用しているとの結果が出ている。

しかし、このように生産性向上に関わる実証実験が進む一方で、人員基準の緩和については「3対1でもギリギリなのに4対1など可能なのか」「ICT機器では対応しきれず、人が対応せざるを得ない部分は残っている。人が減ることによってスタッフ一人当たりの業務負担はむしろ上がるのではないか」「ケアの質が低下するのではないか」「ICTの導入自体が進んでいない」といったネガティブな意見も少なくない。

そのため、4対1の人員基準緩和の対象とされる施設の想定要件も「先進的な取り組み(ICTの活用や介護ロボットの導入)によって、サービスの質を落とさず、職員の負担軽減や人員削減を行っている特定施設」とされており、緩和そのものは一部施設に対する特例的な制度になると予想される。

今後は現場のICT化導入の成果を明確に把握できるような仕組み作りも求められるだろう。

それでは、こうした現状をICTの導入に積極的に取り組んでいる現場はどのような視点で見ているのだろうか。

ICT技術や介護ロボットなどの動向に詳しく、介護施設の施設長などもつとめる尾林和子氏に話を聞いた。

## MESSAGE

### 尾林 和子

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会理事／日本福祉大学福祉経営学部招聘教授  
社会福祉法人東京聖新会理事／特養フローラ田無施設長／老健ハートフル田無副施設長  
一般社団法人ユニバーサルアクセシビリティ評価機構理事長  
FTIC(地域包括ケアのための未来型テクノロジー研究会)理事



#### 生産性の向上は これからの介護経営において必須要素

2025年問題によって介護スタッフが不足することは、もはや介護業界にとって避けようのない課題です。

だからこそ、足りなくなる労働力についてテクノロジーを使って人の代替をしていこうという流れは当たり前の流れだと考えます。

私自身が業務分析などを通じて生産性の向上に取り組んできた経験から考えると、ICTなどの導入は現場の業務負担の軽減に確実に効果があると感じています。

例えば、今まで直接入力しなくてはいけなかった部分を音声入力に変える、見守りにICTを導入し、遠隔で利用者の様子を確認したりすることで不要な移動を減らすなど、利用者と直接かかわらない間接的な介助の部分は圧縮することができます。

またその点から見れば、「介護補助者(助手)」についても、「配膳だけやってくれる」「おしぼりを配ってくれる」などの手助けがあるだけで業務負担の在り方が変わり、その結果、定年退職後の元気な高齢者へ活躍の場の提供や創出が進んだとしたら、可能性が広がります。遠隔によるコミュニケーションロボット等も使い次第では障害者福祉の領域でも活用は進むのではないのでしょうか。

その一方で声掛けや口腔ケア、排泄ケアなどの利用者へ直接的に行う「直接介助」についてはケアの質の担保のためにも専門職がしっかりかかわっていく必要があります。

機械やテクノロジーに代替できない大切な時間の確保は介護現場の質の担保に直結することを鑑みつつ、これからの介護現場における生産性の向上を正面から考えて行かねばならないと思います。

ただ、あくまで人員基準は最低限これだけの人数がいてほしいという基準であり、最低ラインを定めているものであることは認識しておくべきでしょう。テクノロジーや色々なことを導入して、やっと画一的ではないケアが行えるようになったにもかかわらず、余裕ができた分は全て人員削減に回してしまうのではもったいないと思います。人数配置を単純に減らすのではなく、業務の内容をもっと充実すべきかと思えます。

また、中途半端なICT化だけ行われており、システムを使いこなせていないにもかかわらず「人員配置だけ減らしました」というケースが生じないように注意していく必要があります。どのようなICTの設備が設置されているかだけでなく、それを使いこなす、連携していくための体制が構築されているか、どのような機器を導入したことで労働量にどの程度の変化があったのかなどが精査されているのかといった点について、総合的に判断していくべきでしょう。

加えて、あまり現時点で指摘されていないことではあります。施設に様々なシステムも導入していくと、施設全体の回線やサーバーの管理などがどんどんと複雑化していき、システム周りの環境がブラックボックス化するリスクがありま

す。事業所ごとにICT化のプロセスは違ってきますので、アプローチの仕方には注意が必要です。

## 業務分析をしっかりと行っているかどうかのカギ

現在は施設での生産性の向上が課題となっていますが、いずれは在宅方面にも議論が向けられてくるでしょう。次回の改正で創設される在宅+通所の新サービスに加え、今後は在宅の見守り機器などについても注目度上がってくると思います。

こうした制度上の変化があるときにこそ行ってほしいのが自事業の業務分析です。しっかりと分析を行うことができれば、エキスパートが必要となる業務は何か、ある程度誰でもできる業務はどれか、ICTと相性がよく簡素化できる業務はどれかなどの生産性の向上や人員基準の緩和に対する自事業のスタンスが見えてきます。

このような場面でこそ介護福祉経営士の皆さんにはその分析力を存分に発揮し、変化の時代に対応するための中心的な役割を果たしていただきたいと思います。

## 地域介護経営

Care Vision

地域のニーズをすくい上げ  
地域から超高齢社会を支えていくための  
視点を具体的事例とともに掲載

# 介護ビジョン

今月の

## 第1特集

オーナー経営者の高齢化と後継者不足、コロナ禍に物価高騰が加わった経営環境の悪化等を背景に、介護業界でM&Aニーズが増加している。事業承継や事業参入・拡大の手段として、M&Aを選択する事業者は今後も増えていくことが予想される。実際に事業の譲渡や売却を行った当事者は、どんな狙いでM&Aに取り組んだのか。経緯や思いを聞いた。

## 事業の譲渡・売却 私の決断

### introduction

事業承継の手段としてM&Aも選択肢のひとつ

### 解説

経営者の決断が利用者・職員・地域を救う  
中川稔大(株式会社日本経営ヘルスケア事業部次長)

### 【決断1】

入居者と職員を引き受けることを条件に  
信頼できる相手に譲渡を決めた

金子真理子(学校法人聖明学園理事長・学校法人須和田学園理事長・  
社会福祉法人靖心会理事長)

### 【決断2】

自ら築き上げた事業の拡大と発展を  
力のある大手介護事業者に委ねる

縄 優(医療法人社団江翔会理事・株式会社CHIP取締役)

### 【決断3】

事業の拡大・充実により高齢者のあらゆるニーズに  
網羅的にかかわっていく

皆川 敬(サニーウインググループ代表)

### 【決断4】

時間をかけて準備し平穩に継続してくれる譲渡先に  
職員と利用者を託す

下川 寛(一般財団法人創造くまもと代表理事)

## 第2特集

## あなたの事業はどうなる？ 2024年度介護保険法改正

2023年3月号

(2023年  
2月20日発売)



<http://www.jmp.co.jp/carevision/>

- 毎月20日発行
- 定価: 1,320円(税込)
- 定期購読料: 15,840円(税込)
- ※ 会員価格は12,672円(税込)

【購入に関するお問い合わせ】  
株式会社日本医療企画 Tel: 03-3553-2891

## 地域の認知症ケアに寄り添っていける介護経営を目指す

横堀 公隆 ●よこぼり・きみたか

医療法人財団アカシア会 介護本部 介護統括部長  
介護福祉士／介護支援専門員(ケアマネジャー)／社会福祉士

## 介護経営の知識を求めて資格を取得

医療法人財団アカシア会は大きく分けて医療・介護・障害福祉の3つの事業を展開しており、医療系のクリニックが中心となっています。クリニックの特長として「もの忘れ外来」を開設しており、長らく認知症の方の診断および治療に携わってきました。

私が所属する介護本部ではクリニックを母体として、認知症対応型グループホーム、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所といった施設を経営しています。

現在は介護本部の介護統括部長を務めており、もの忘れ外来とのつなぎ役や地域の委託事業の管理運営、介護本部の事務的な部分などを担っているほか、今後の法人の行く末を検討するための「構想委員会」にも参画しており、経営に関する業務にも携わっています。

元々、幼い頃から身の回りに福祉施設などが多くあったことから、自然と福祉の仕事に携わっていきたくて考えるようになっていました。学校卒業後は障害福祉の入所施設へ入職。地域包括支援センターへの異動を経て、現在の医療法人財団アカシア会の介護本部でも引き続き福祉に関わる仕事をしています。そのため、現場での実務経験が長く、本格的に経営に携わるようになったのは2年ほど前からです。

私の経歴が現場メインの仕事が中心であったため、予算書や決算書の見方も分からなければ、勘定仕訳についても何のことなのか分からないような状態でした。そのため、いざ経営する側に立った際、どうすれば良いのか非常に悩みました。

そんな時、学生時代にお世話になった東洋大学社会学

部の藤林慶子先生にご相談させていただく機会がありまして、介護福祉経営士をご紹介いただいたのが資格取得のきっかけでした。

## 人材確保をはじめとした課題解決に資格を活かす

資格取得のために勉強してみると、あらためて介護保険制度の仕組みを勉強しなおす機会となっただけでなく、私が苦手とする数字に関する事柄についても、もっと踏み込んで勉強しなくてはいけないことがよくわかりました。協会主催のセミナーに参加し始めたり、日商簿記の勉強を始めたりと新しいアクションを始める良いきっかけとなったと感じています。

また、どうやって加算を取るか、人事管理の部分をどうするかなど、さまざまな面で数字が関わってくるシーンも多く、勉強したことが実務の中でも役に立っていると強く実感しています。

そして今後も人材確保の面や介護報酬の調整など、資格を活かしながら課題と向き合う日々が続いていくと考えています。

特に人材確保の面では、どのような求人方法がいいのか、どういったところにアプローチすればいいのか、私たちの法人の魅力はどう高め、人材定着率をあげていくのかといった点など検討すべきところが多く、課題が多岐にわたっています。

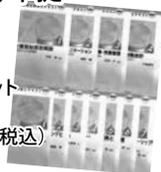
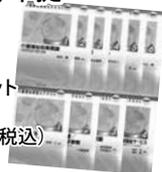
私どもの法人は医療と介護の連携が密であり、地域の認知症の方にしっかりと寄り添っていける点が大きな強みです。そうした強みをより強化、アピールしていくことで人材確保につながるような工夫をしていきたいと思えます。

## 介護福祉経営士テキストのご案内

介護福祉経営士テキストシリーズは、「介護福祉経営士」の試験科目に対応しています。

いまなら

「介護福祉経営士2級資格認定試験対策  
— 合格サポートブック —」がもらえる!!

介護福祉  
経営士テキスト  
のご案内介護福祉経営士  
1級試験 準拠実践編  
全11巻セット  
特別価格:  
26,190円(税込)介護福祉経営士  
2級試験 準拠基礎編  
全10巻セット  
特別価格:  
24,100円(税込)「合格サポート  
ブック」とは

- 「介護福祉経営士テキスト」基礎編(10巻)各巻の重要ポイントの解説を掲載
  - 予想問題を掲載
  - 第1回「介護福祉経営士2級」資格認定試験で実際に出題された問題を一部掲載。
- ※解説は(株)日本医療企画によるものです。

\*株式会社日本医療企画へ直接お申し込みされた場合の価格となります。

テキストのお申し込み、お問い合わせは株式会社日本医療企画ホームページへ  
▶<http://www.jmp.co.jp/>



## 第7回「介護福祉のみらい」作文コンクール 入選作品掲載

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、将来を担う中学生、高校生が、介護や福祉の大切さを知り、未来に関する考えや思いを発表することを目的に、第7回「介護福祉のみらい」作文コンクールを実施しました。全国より応募総数506編の作品が寄せられ、黒澤貞夫審査委員長（日本生活支援学会会長／浦和大学名誉教授）のもと、厳正な審査を行いました。以下に入選作品を掲載いたします。

### 最優秀賞

## 「福祉について気づいたこと」

すなわ りせい  
砂川 琉聖さん

(宮古島市立狩俣中学校 1年)

僕は、中学生になって「福祉」について学んだ。最初は福祉について、わからないことばかりだった。なぜ、知らない人のために、世話をしないとイケないか、なぜ、福祉について学ばないとイケないのかとばかり考えていた。社会のためといっても、得するのは福祉を利用する人だけだと思っていた。しかし、中学校の総合学習で福祉や介護について学ぶにつれて、その考え方は変わった。総合学習では、色々な体験や学習をした。

まず、福祉や介護で一番大事なものを学んだ。それは、相手を思いやることだ。自分のことを知ってもらうためには、自分自身について理解する、“自己覚知”が大事だと学んだ。そして、相手のことを知り、相手を思いやらないとイケないということを学んだ。実際にそうだった。友達と喧嘩したときも、親から注意されたときも、自分についてちゃんと理解していなかった。だから、自分が悪いにもかかわらず、友達をせめたり、親に注意されても、自分の何が悪いんだと思ったりしてしまった。そして、その出来事をふまえて自己覚知がとても大事なことだと思った。

次に、車椅子の体験をした。車椅子を動かすのはとても楽しかった。だが、同時に辛さも知った。車椅子を動かすには、腕にとっても力が必要だった。更に、坂ではその倍以上の力が必要だった。そして、なによりも自由に歩き回ったり、走ったりできないことが、車椅子の利用者にとって、かなり苦痛だと思った。だからこそ、自由に歩いた

り、思いっきり走ったりできる自分は幸せ者だと、改めて自覚できた。

最後に学んだのは、妊婦さんや赤ちゃんについてだった。それは、赤ちゃんの人形を抱っこしたり、ミルクのあげ方を学ぶ授業だった。僕には、弟と妹が1人ずついるため、赤ちゃんの世話は得意だと思っていた。だが、授業を受けると、色々な指摘をうけ、赤ちゃんの世話の仕方について改めて理解を深めることができた。また、小さい子供と遊ぶ時のために、折り紙についても習った。ぼくは、ぶたの折り紙を作った。ほんとに喜ぶかな?と思い、妹と弟に渡すと、妹が嬉しそうに「ありがとう」といつてくれた。その時、前までは得するのは福祉を利用する人だけという考えが一変した。妹に「ありがとう」と言われて、とてもいい気持ちになった。この学習を通して、得するのは福祉を利用する人だけじゃなく、福祉に関わる人みんな、知らない人を支えてあげるのが福祉ではなく、みんなで助け合い、喜びをわけあうことだと気づいた。

僕は、福祉について学んでとても良かったと思った。また、僕はこれからの福祉に、より良いものであってほしい。それは、日本だけでなく世界規模で、福祉が今よりも良いものであってほしい。そのためには、僕や、世界中にいる人たちが、みんなで元気に楽しく暮らせるために福祉について学び、一人ひとりが福祉について考えてほしい。

### 受賞者コメント

体験して学んできたことを書いた作文で、このような賞を受賞することができてとても嬉しいです。これをきっかけに、もっと福祉について学びたいです。

砂川 琉聖さん



### 審査委員長のコメント

全体的にバランスが取れており、品格が感じられる良い文章だと感じました。学校主導でこうした福祉に関する学びをしっかりと深めている点は、とても良いことだと思います。

※学年は応募当時のものです。

# お知らせ

## 介護福祉経営士試験が自宅や職場でも受験できるようになります！

NEW!

### 在宅受験（リモート方式）

自宅や職場のPC※で受験することができる新しい受験方式です。

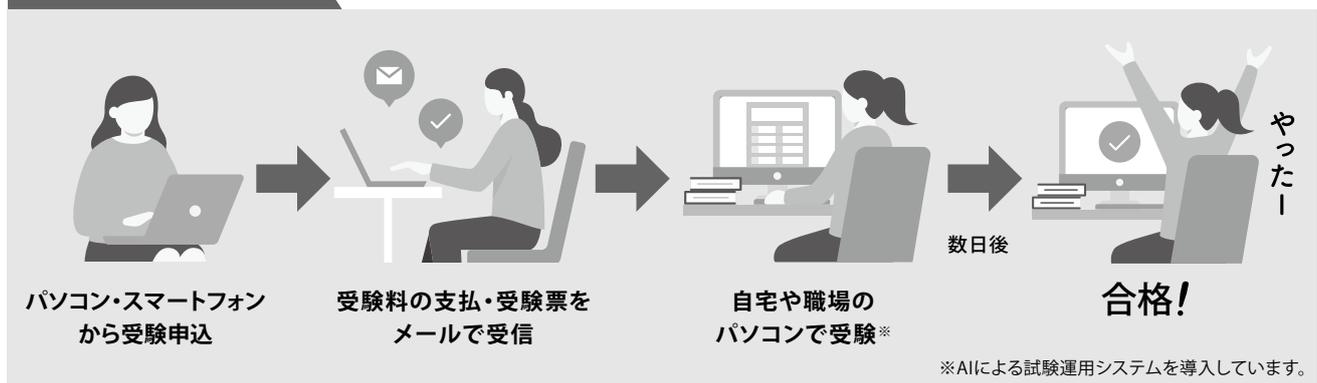
※在宅受験にあたってはインターネット環境、機器（カメラ・マイク）などの環境をご準備いただく必要があります。

### 会場受験（CBT方式）

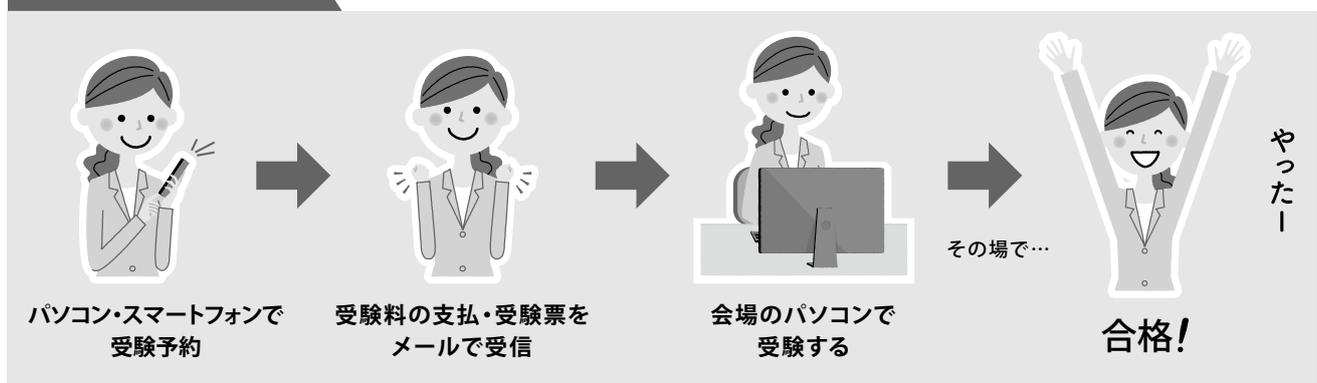
インターネットで最寄りの受験会場を予約し、会場のPCで受験する従来の受験方式です。

## 受験の流れ

### 在宅受験（リモート）



### 会場受験（CBT）



## ■試験のお申し込み・お問い合わせ・資料請求はウェブで

〒104-0032  
東京都中央区八丁堀三丁目20番5号 S-GATE八丁堀9階  
TEL.03-3553-2896 FAX.03-3553-2897

<http://www.nkfk.jp/>

または

介護福祉経営士

検索



一般社団法人 日本介護福祉経営人材教育協会



## 日本医療企画

### “イチ”からわかる介護経営オンライン塾

介護経営に関する正しい知識を全5回にわたって学ぶ。

- 第1回 2023年4月21日(金)  
介護経営を取り巻く環境を学ぶ
- 第2回 2023年5月19日(金)  
介護事業の経営分析手法を学ぶ
- 第3回 2023年6月16日(金)  
介護事業の経営戦略策定を学ぶ
- 第4回 2023年7月21日(金)  
介護事業の収益増加・費用削減と実行手法を学ぶ
- 第5回 2023年9月8日(金)  
高齢者向け住宅の未来介護経営を学ぶ

- 時間: 16:00~18:00 ※ライブ配信だけでなく後日アーカイブ受講も可能
- 講師: 古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ/介護福祉経営士2級)  
熊田圭佑氏(有限責任監査法人トーマツ/介護福祉経営士2級)
- 開催方法: オンライン
- 受講料: 各回2,000円 ※税込

お申し込みはこちら▼

[https://www.jump.co.jp/seminar/kansai/onlinecp\\_juku\\_2023/](https://www.jump.co.jp/seminar/kansai/onlinecp_juku_2023/)

お問い合わせ 株式会社日本医療企画 関西支社  
TEL:06-7660-1761



## 一般社団法人日本医療経営実践協会

### 病院給食部門の危機を乗り越えるための緊急セミナー さらなる物価高騰で食材費はどうなる？ 知っておくべき給食部門の経営管理

さまざまな課題を抱える給食部門の経営管理だが、病院において給食は治療の一環。給食部門は単なる「コスト産生部門」ではなく、多くの可能性を持っている。病院経営における給食部門の重要性とこれからの可能性について解説する。

- 日時: 2023年3月27日(月) 15:00~16:00
- 講師: 宮澤靖氏(東京医科大学栄養管理科科长、  
日本栄養経営実践協会代表理事)
- 開催形式: オンラインセミナー(ウェビナーを使用)
- 参加費: 医療経営士・介護福祉経営士・栄養経営士 2,000円、  
一般 3,000円
- 定員: 100名

お申し込みはこちら▼

<https://peatix.com/event/3496007/view>

お問い合わせ 株式会社日本医療企画  
TEL:03-3553-2863



## グローバルカイゴ検定協会

### 2022年度厚生労働省老人保健健康増進等事業 介護現場での社会実装化を見据えた 外国人介護人材キャリア育成に資する有効な手法確立 のための調査研究事業成果報告会・公開シンポジウム

#### 【プログラム】

##### 第一部 基調講演

「外国人介護人材政策の現状と今後について～政策の行方を踏まえて～」  
翁川純尚氏  
(厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 室長補佐)

##### 第二部 シンポジウム

「外国人介護人材キャリア育成に資する有効な手法確立のために」

- 日時: 2023年3月4日(土) 15:00~17:30
- 開催方法: ハイブリッド開催(会場+オンライン)
- 会場: 学校法人敬心学園 東京保健医療専門職大学 611教室  
(東京都江東区塩浜2-22-10)
- 参加費: 無料 ※申込締切: 2023年3月2日(木) 12:00

お申し込みはこちら▼

<https://global-kaigo.or.jp/>

お問い合わせ 一般社団法人グローバルカイゴ検定協会  
事務局(学校法人敬心学園内)  
TEL:03-3200-9074



## 日本デイサービス協会

### 2023年デイサービス5選

日本デイサービス協会では、変革期を迎えている介護業界において優れた取り組みを行っているデイサービスを「デイサービス5選」として認定し、全国のデイサービス事業所のロールモデルとして推奨。オンラインにて発表会を開催する。

- 日時: 2023年3月15日(水) 18:30~
- 開催方法: オンライン
- 参加費: 無料

お申し込みはこちら▼

<https://pf.japandayservice.com/grand-prix/>

お問い合わせ 一般社団法人日本デイサービス協会  
お問い合わせフォーム  
<https://pf.japandayservice.com/contact/>



## 介護経営Lab 投稿募集中!!

介護経営Labは介護福祉経営士の皆さんが普段感じられている悩みや、疑問をご投稿いただき、有志の介護福祉経営士がそれに応える読者参加型の新企画です。

お寄せいただいた投稿を「介護福祉経営士ニュース」の紙面上で紹介させていただきます。(また、記事の寄稿をご希望の場合は同フォームの備考欄にご記入ください。「介護経営Lab」とは別に記事掲載に関してご連絡させていただきます)

URLをクリックまたはタップすると投稿フォームに移動します

<https://forms.gle/CYdvT3c3zPirsimj6>

